

一秒でも早く助けたい命がある！

救急車を上手に使いましょう～救急車が必要なのはどんな時～

問 衣浦東部広域連合消防局消防課 ☎ 63-0135

全国の救急出動件数は過去最多となり、救急車の平均到着時間は延伸しています。心停止から1分ごとに、救命率は7～10%下がります。救急車や救急医療は限りある資源です。緊急性の高い傷病者のもとへ、救急車が迅速に到着できるよう、救急車の適時・適切な利用に協力をお願いします。

救急車を呼ぶ前に考えよう

症状に緊急性がなくても、「交通手段がない」「どこの病院に行けばよいか分からない」「便利だから」「困っているから」と救急車を呼ぶ人がいます。また、「平日休めない」や「日中は用事がある」などの理由で救急外来を夜間や休日に受診する人もいます。救急車を呼ぶ前に、また救急外来に行く前に本当に必要か考えましょう。

こんな時は すぐに119番！

- ・意識がない（返事がない）
- ・呼吸がない
- ・けいれんが止まらない
- ・突然の顔や手足のしびれ
- など

判断に迷ったときは

▼救急医療情報センター（24時間対応） ☎ 36-1133

症状に見合った最寄りの適切な医療機関を紹介します。

▼小児救急電話相談（毎日19時～翌朝8時） ☎ #8000 又は ☎ 052-962-9900

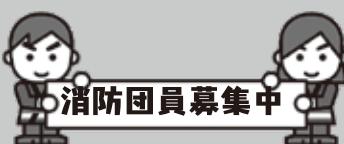
小児科医師・看護師が子どもの症状に応じた適切な対処の仕方や受診できる病院などのアドバイスをします。

▼総務省消防庁 全国版救急受診アプリ「Q助」案内サイト

緊急度判定を支援し、医療機関や受診手段の情報を提供するアプリです。



アプリQ助



地域のヒーロー 消防団



危機管理課地域防災係
☎ 95-9875

女性消防団員としての活動

市消防団では、令和7年度は3人の女性消防団員が活動しています。消防団活動を通じて得た感想など、団員の生の声を紹介します。

入団当初は、外国籍で、女性で、そして周りの団員より年齢の高い私が受け入れられるのか、とても不安でした。しかし、実際に活動してみると、団員の皆さんのが本当に優しく、温かく迎えてくださって、不安がワクワクに変わっていきました。今ではとても楽しく活動しています。

団員の皆さんには、それぞれ違う仕事や経験を持っていて、一緒に活動することで多様な考えに触ることができます。また、地域のことをより深く知り、みんなで汗を流しながら、お互いに励まし合う環境の中で活動しています。

年齢のこともすっかり忘れて、心身ともにたくましく成長できており、団員の皆さんからパワーをもらって、心が若くて元気になった気がします。

これらの経験は消防団活動でしか得られないと思います。

消防団は「火を防ぐ」だけでなく、「防災・救急・救命」にも大切な役割があります。これからも知識や技術をしっかりと身につけて、市民のみなさんに防災の種を撒き、皆さんの防災意識と防災力を高めて、いざという時に備えていきたいと思います。先輩方の指導を受けながら、一日も早く戦力になれるよう努力し、地域の安全と安心を守るために役立てるように頑張ります。若い世代と交流して、体を動かして生き生きしてもっと元気になりたい人、地域に貢献したい・自分を挑戦したい・新しい自分を見つける人はぜひ入団をお待ちしてます。

市消防団公式Instagram

